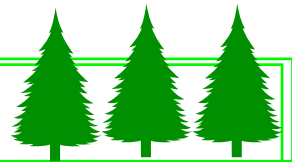




みつぎ便り



第205号 10月号 令和5年10月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



アオマツムシ (青松虫)

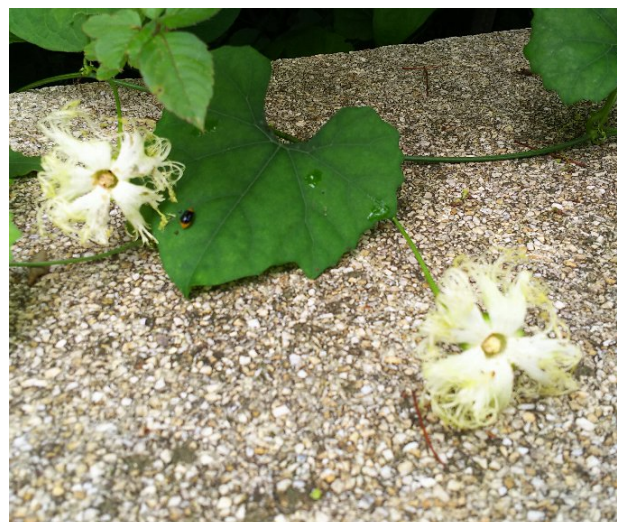
今年の夏は、記録づくしの日本列島で、やっとしのぎやすくなりました。公園も暑苦しいアブラゼミなどの蝉の声から、コオロギなど虫の爽やかな音色が変わってきました。さて、今回はそのコオロギの仲間の紹介です。文部省唱歌「むしのこえ」の冒頭にでてくる（♪あれマツムシが鳴いている チンチロチンチロ チンチロリン・・♪）と歌詞にあるマツムシは日本在来のマツムシのことで、今回の「アオマツムシ」は、一九〇〇年頃に中国から入って来た外来種と言われています。

す。「♪チンチロリン♪」ときれいな声で鳴く日本古来のマツムシは、その数が激減している一方、アオマツムシは近年、関東以西の都会に多く生息し、樹木の上で、夕方から鳴き「リーリーリー リーリーリー」と、かん高い音です。体長は二十〜二十五mm位で、鮮やかな緑色で、オスには背中の中は茶色の斑紋が見られます。日中は、葉の裏などにじっとしていて葉と同じ色をしているため、なかなか見つかりませんが皆様もこのアオマツムシをぜひ探してみてくださいませんか？

(圭)

カラスウリ (烏瓜)

月の初め公園の北側斜面のバス通り側に烏瓜が白い花を咲かせていました。四〜六月に塊根から発芽、茎は葉と対生に出るコイル状の巻きひげで傍らのものに巻き付いて高く上ります。八〜九月、白色で芳香のある花を咲かせ翌朝にはしぼみます。雄花は短い房状で、花芽は一カ所から複数つき数日間連続して開花します。十〜十一月に瓜に似た実を付け



ます。はじめは白い縞のある緑色で光沢がありますが、熟れると朱赤色になって良く目立ちます。

蔓は長さ5mほど伸びます。夏の間は上へ上へと伸びて秋になると下に伸び、先端が地表に触れるとそこから根を出し、ここにも新しい塊根を形成します。冬になると地上部は枯れるが地下には澱粉やタンパク質をふんだんに蓄えた塊根が発達しており、これで越冬します。

果肉は肌荒れ止めの化粧水となるといわれています。塊根から採った澱粉は天花粉（てんかふん）の代用とされています。

(薫)